

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM TIMES

vol.04

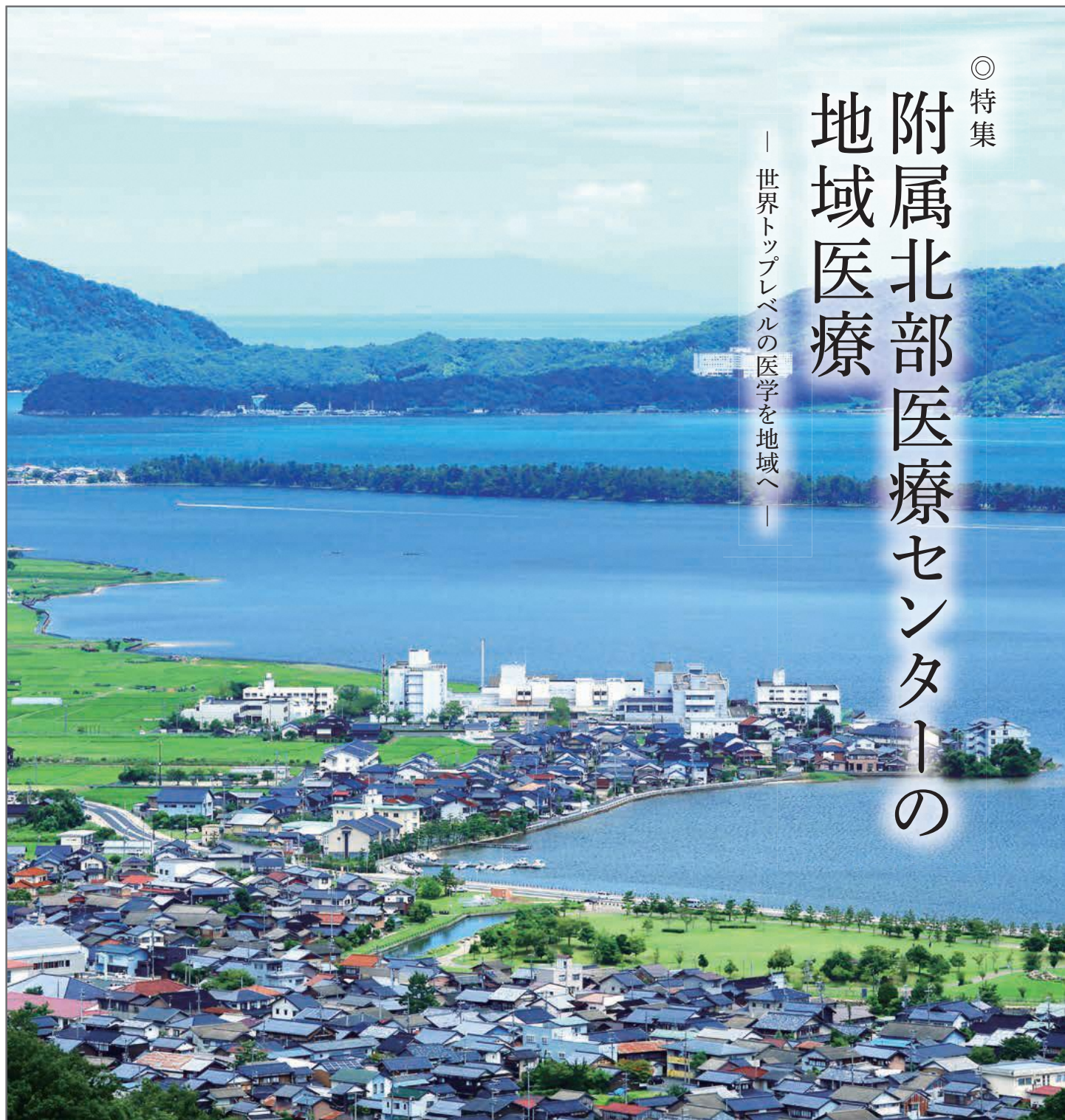
March 2020

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

◎特集

附属北部医療センターの 地域医療

— 世界トップレベルの医学を地域へ —



京都府公立大学法人
京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM
TIMES

vol.
04

CONTENTS >>

03 | 特集
附属北部医療センターの
地域医療

—世界トップレベルの医学を地域へ—

08 | 産学公連携最前線

10 | 卒業生からのメッセージ

北山修さん

11 | 新任教授紹介

分子標的予防医学 武藤教授

運動器機能再生外科学 高橋教授

12 | 部活動紹介

13 | TOPICS

白衣授与式

小児病棟 プラネタリウム企画

14 | 国際交流NEWS

チェンマイ大学・チュラロンコン大学訪問

15 | 府立医大いまむかし

— 建学150年に向けてⅣ —

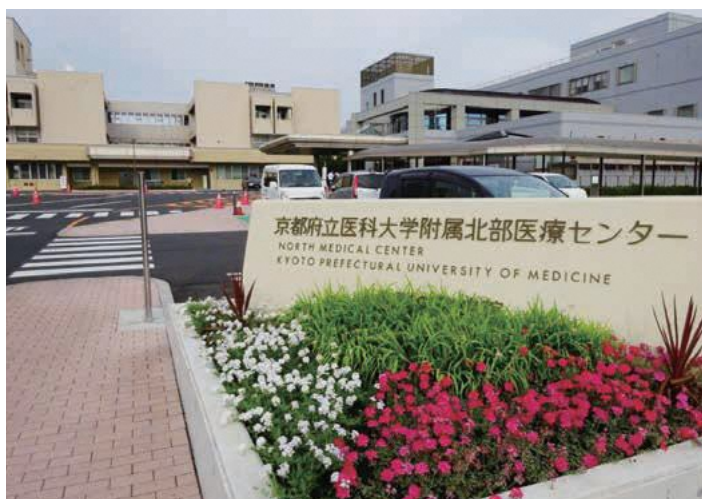
16 | 創立150周年に向けて



大内峠一字観公園からみた北部医療センターと天橋立
阿蘇海に面した与謝野町に位置しています。

撮影：北部医療センター倉橋さん

地域医療の最前線「附属北部医療センター」 「信頼される全人的医療」



許可病床数:295床 診療科:21科 外来患者数:144,494人(平成30年度)

京都府北部与謝野町に位置する附属北部医療センターは、日本三景の天橋立が一望できる海沿いに面した京都府丹後地域の基幹病院です。

所属するほとんどの医師は、京都府立医科大学の教員であり、診療、教育・研究の拠点となっています。



京都府立医科大学
附属北部医療センター

中川病院長メッセージ

京都府立与謝の海病院が京都府立医科大学附属北部医療センターになって、7年になります。平成25年4月1日の附属病院化に伴い、私が京都府立医科大学の神経内科教授から病院長として赴任して以来、「信頼される全人的医療」を基本理念として掲げ、職員一丸となって取り組んできました。

この7年間で、診療機器の整備、救急診療スペースの拡大、外来駐車場の拡充、産婦人科病棟に出生設備(LDR)の開設、医療相談・がん相談の充実、結核病棟の改修、認知症疾患医療センターの積極的運営などを行ってまいりました。今春には「がん診療棟」の建屋が完成し、化学療法室が10床になります。5月からPET-CT検査、10月からリニアックによる放射線治療が開始となる予定です。丹後医療圏におけるがん診断・治療の一段の充実に取り組んでまいります。

教育・研究面では、北部の全公的病院が連携して最新医療機器の合同研修・カンファレンスを実施し、丹後地域を対象に健康長寿コホート研究を展開するなど、大学附属病院として教育・研究にも力を入れてきました。今後とも、専門性と総合性を備えた住民の皆様にも愛される地域中核病院として、更なる

飛躍を目指したいと考えております。

当院の丹後医療圏は、高齢化率35%以上であり我が国の超高齢社会を先取りしている地域です。丹後の特徴である“豊かな自然、豊かな人間性、長寿社会、緊密な組織間の連携”を活かして、心豊かに安心・安全に暮らせる地域社会を日本の未来を先取りする形で実現するために少しでも貢献したいと考えています。



京都府立医科大学
附属北部医療センター
病院長 中川 正法

特集 附属北部医療センターの地域医療

附属北部医療センターにがん診療棟を新設

令和2年5月/PET-CT・化学療法、10月/リニアック 治療開始予定！



北部医療センターの位置する丹後医療圏は、がんの調整死亡率が87.4（府内78）と府内で最も高い地域ですが、放射線治療を行うことのできる設備がなく、治療を希望する患者さんは福知山市や京都市など他の医療圏に治療を受けに行く必要がありました。

京都府がん対策推進条例に基づき、がん検診受診率の向上をはじめ、がん教育の推進、相談支援の強化、がん医療連携体制の充実など総合的ながん診療の一つとして二次医療圏ごとに国が指定するがん診療連携病院を整備することとなり、丹後医療圏では北部医療センターにリニアック、PET-CTを設置したがん診療棟を建設することとなりました。

がん診療棟の新設により、住み慣れた地域で高度ながん診断、集学治療（化学療法、手術、放射線治療）が可能となり、地域の皆さんの安心につながります！

放射線治療装置【リニアック】

放射線治療は、腫瘍の病気などが適応となります。腫瘍の根治を目的とした放射線治療の特徴は、手術に比べ身体的な負担が少なく、手術が難しい高齢の患者さんでも治療が可能、通院治療が可能とされています。また、腫瘍が転移した臓器、骨などに対して痛みの症状緩和を目的に放射線治療を行うこともあります。丹後医療圏では初の導入となります。

PET-CT

核医学検査の一つで、腫瘍の診断にはブドウ糖（グルコース）類似物質（FDG）を注射、その分布を画像化し、同時にCT撮影した画像と重ね合わせて診断します。認知症検査や心臓検査にも応用できます。丹後医療圏では初の導入となり、最新鋭の機器の導入により5mm程度の病変の検出が可能で、短時間の撮影で患者さんの負担軽減や被爆が低減される上、より高品質な画像によりがん組織の検出に期待が高まります。

化学療法室

薬物療法は、抗がん剤によりがん細胞の増殖を抑える治療です。錠剤など飲み薬によるものと点滴や注射などを注入する方法があります。がんの種類や進行度に応じて手術や放射線治療と組み合わせて行うこともあります。現在、南棟7床で治療していたものを移転し、10床に増床します。



リニアック



PET-CT

丹後活き生き長寿研究

【研究の名称】 丹後地域の中高齢者の老化に関する縦断的疫学研究
(健康長寿コホート研究:丹後活き生き長寿研究)

【研究責任者】 北部医療センター 教授 中川 正法

【実施期間】 平成26年度～

【協力機関】 京都府丹後保健所、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

丹後活き生き長寿研究(丹後地域の中高齢者の老化に関する縦断的疫学研究)は、北部医療センターが医大の附属病院となったことを契機に、平成26年度から取り組んでいるコホート研究です。「百寿者」が全国平均の2.5倍以上の京都府北部の丹後地域(宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)で、これまでに住民延べ約千人の方に参加いただきました。

この研究では、80歳以上の方の約4割が発症するといわれるアルツハイマー型認知症など、加齢と関わりの深い疾患が発症する前の60歳～64歳の方(初回参加時)を対象として、2年毎に健康状態と、生活習慣の調査を行っていることが特徴になっています。(以下、「健診」という。)まだ発症していない方を対象とすることで、病気の予兆や、ごく早期の段階での発見、また発症前後の経過を知ることが期待できます。

もう一つの特徴は、参加者に対して健診の度に繰り返し認知症予防についてのレクチャー、食事内容の聞き取り時の栄養アドバイス、体力測定時のロコモティブシンドローム予防のアドバイス等を行い、老化に関連する知識を深めながら自らの身体や健康について客観的に知り、生活習慣を見直す機会としていただくように積極的に働きかけていることです。

この取り組みにより、「認知症等加齢関連疾患の予防・治療に有効な生活習慣等の発見」と「参加者の健康長寿の延伸」という2つの目標を同時に達成しようとしています。

参加された方からも「このような機会があると自分を見つめ直すことができてよい。」「健康でいるための意識づけになる。」など継続的な参加に前向きな感想を多数いただいています。

令和元年度、この研究は6年目を迎え、2回、3回と参加された方のデータも徐々に蓄積されてきました。2年前に創刊した機関誌「活き生きかわら版」では、健診の実施状況や健康長寿に役立つ情報をお伝えするとともに、少しずつですが研究成果の報告もさせていただいています。

さらに様々な角度からデータの分析を進め、新しい発見と成果を広く発信できるよう、引き続き取り組んでいきます。

機関誌「活き生きかわら版 第5号」の内容 (最新号)

- 運動と物忘れについて
総合医療・医学教育学教室 丹羽 文俊 講師
- 血管の老化とは
循環器内科 河崎 貴宣 医長
- 検査結果紹介(血管年齢)
- 健康長寿・豆知識(認知症と聴力について)
耳鼻咽喉科 信原 健二 医長



*北部医療センターHPIに掲載

<http://nmc.kpu-m.ac.jp/doc/gaiyou/busyo/3007300/3007303.html>



認知症予防についてのレクチャー

特集 附属北部医療センターの地域医療

在宅療養と在宅看取りの浸透は非常に重要。
そのためにも医療介護連携の推進を

一般社団法人与謝医師会 会長 山根 行雄

3つの大きなテーマを掲げ
北部地域の医療を守る

北部医療センターの前身である与謝の海病院で消化器内科医長を務めたあと、宮津市内で開業して16年になります。勤務医の頃より、地域の方々の素朴で、我々に対して尊敬の眼差しを向けてくれる温かな人柄に心惹かれていました。そして、地域の開業医の高齢化と廃業が相次いでいる現状に、ここで開業して地域の方のお役に立ちたいとの思いが募り、この地での開業を決意しました。地域貢献というような大げさな気持ちよりは、愛すべき人々の助けになりたいという素直な思いが、私の地域医療を支えてきたと思います。

この間、私は外来とともに訪問診療を続けてきました。かつては病院で亡くなるというのが一般的でしたが、多くの患者さんは自宅での看取りを希望しており、かかりつけ医が在宅医療で患者さんを看取る体制が何としても必要だと痛感していました。その体制づくりの基本はいうまでもなく、医師、訪問看護師、介護士との連携、すなわちチーム医療の確立です。

現在、京都府による北部医療介護連携プロジェクトも始まり、かかりつけ医の立場から次の3つの提言を行い、具体的な取り組みを実践しています。

① 医療介護福祉連携の推進

「地域ケア会議」を発足。月に1回会議を開催し、介護職や行政の人たちと在宅療養における問題点を情報共有し、解決に向けた話し合いを続けています。

② 北部医療センターとかかりつけ医の定期交流と患者情報の共有

病院と診療所との病診連携を目的に定期的に交流を行い、SNSを用いた患者情報の共有を推進しています。

③ 看取りプロジェクト

かかりつけ医が単独で365日・24時間、対応しないといけない状況では在宅看取りは普及しません。かかりつけ医の過度の負担を避けるため、万が一、かかりつけ医が対応できない場合、北部医療センターの先生に看取りをしていただく看取りプロジェクトが進行しています。

北部医療センターとは、普段の診療から大変よい関係を築けており、先生方の地域

医療への貢献には感謝しています。北部地域の医療における安心のため、この連携と関係をより強固にし、永続していければと思います。

自然災害時における
情報共有・提供も大きな課題

一昨年(平成30年)7月、宮津市でも水害が起き、幸い命には別条はなかったものの私の患者さんの家が土砂崩れに遭ったり、在宅療養中の方が体育館に避難したりしました。私も体育館に駆け付け、薬の手配などをしました。そこで痛切に感じたのは、大きな災害が起こったとき、災害拠点病院でもある北部医療センターや行政と密に連絡を取り合い、どの医療施設でどんな医療ができるのかという情報を共有し、すみやかに患者さんたちに提供できる仕組みと体制をきちんと作っておかなければならないということでした。今は行政の主催する地域防災会議に出席したり、また地域ケア会議でも多職種の連携を通じた災害時の対応について具体的に話し合ったりしています。医師会としても、それが絵に描いた餅にならないよう、いざというときにちゃんと動ける当事者意識を常に持ちながら活動しています。



プロフィール

京都府立医大卒業後、府立医大病院から与謝の海病院消化器科医長を務めたのち、平成15年、山根医院開業。平成30年より与謝医師会会長。

大事なのは思いやりと平穏な心。 「地域の医療は地域で完結」をめざして

北部医療センター 副病院長 沖原 宏治



プロフィール

京都府立医大卒。平成28年より北部医療センター勤務。平成31年4月より同センター副病院長。専門は泌尿器悪性腫瘍(前立腺癌)泌尿器超音波診断学。

府立医大のノウハウを還元し 横断的かつ全人的な医療を実践

京都府立医科大学附属病院はいまでもなく各分野のスペシャリストの集団ですが、北部医療センターでは、私のような前立腺がん専門医であっても泌尿器科全般の治療を担う必要があります。また府立医大病院には診断学・治療学とも世界最先端水準の技術や機器が充足されていますが、北部地域においてはそれらを最大限に患者さんに還元することが困難であることを経験します。このような現状にあって「横断的かつ全人的な医療」は、重要なキーワードと考えます。治療や研究の中で、例えば、感染症、緩和など診療科の垣根を超えて、共に臨床しながらこの地域の医療をどう充実させるのかに取り組んでいくのが非常に大切です。医師同士が直接会話のできる当センターの環境は、患者さんに対する迅速な対応、新しい臨床研究の促進につながっており、地域の中核病院として立派に機能を果たしているといえるでしょう。

北部地域は長寿医療圏です。当センターは医師、看護師、介護士などのチーム医療が展開しやすい規模である特性を

最大限に活用できると思います。たとえば、泌尿器科に虚弱体質や認知症の患者さんが入院された場合、生活動作の維持を目的に積極的な院内リハビリテーションを行うなど、個々の病気に対してだけではなく併行的な治療を実践しています。また、寝たきりの方が尿路結石などで、重度の感染症で命がおびやかされる例も少なくなく、その予防と高い耐性菌の蔓延を防ぐため、地域をあげて抗生物質の過剰な使用を回避しています。こうした取り組みは、医大や病院での高レベルな研究の足跡があつてこそ、展開が可能なのです。私たちの最大の役割は、中核病院としてほかに選択肢のない状況で、疾患により個人的、社会的に困っているすべての方に対して、医大病院でのノウハウや経験を最大限にフィードバックすることであると考えます。

がん診療棟の開設を契機に 臨床レベルの向上を図る

教育面では、京都府立医科大学現代GPプログラムにおいて、北部地域で実際

に病気のご家族を持つ住民から話を聞く機会が設けられています。高齢化や過疎化の進む地域を、医療的・社会的観点からどのように活性化していけばよいのかを考える貴重な機会であり、最先端医療や大都市への医療貢献だけではなく、自然や地域との関わりを持ち、思いやりや平穏な心など精神的価値観を追求する教育システムは、他大学にはない特長です。

当センターには来年度がん診療棟が開設されます。放射線治療の導入も予定しており、「地域医療は地域で完結させる」という目標の大きな一歩となるでしょう。この放射線治療の70%以上を前立腺がんが占めると予想され、当センターの臨床レベルを上げるためには泌尿器科がリードする必要があると、今、決意を新たにしているところです。そして若い先生方には、「ああしたい、こうしたい」と模索している姿を見せることも、私の責務のような気がしています。



産学公連携最前線

京都府立医科大学では、様々な企業と連携しながら研究に取り組んでいます。今回は特許を取得し、企業と共同して研究や技術の実用化に取り組んでいる事例を紹介します。

ダイレクト・リプログラミング(ダイレクト・コンヴァージョン)による細胞誘導法

発明名称 「褐色脂肪細胞及びその調製方法 (WO2014010746 A1)」 他、計 9 件

発明者 岸田綱郎、山本健太、素輪善弘、若尾純子、井上裕太、松田 修 他

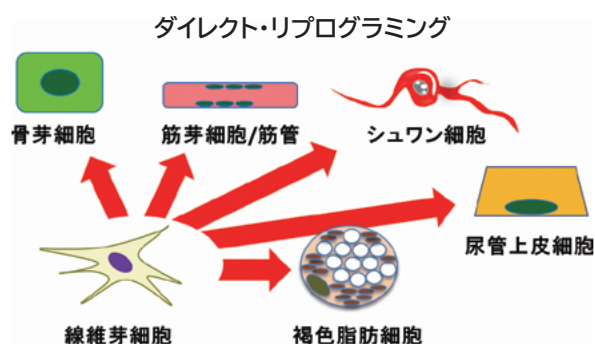
出願者 京都府公立大学法人

概要

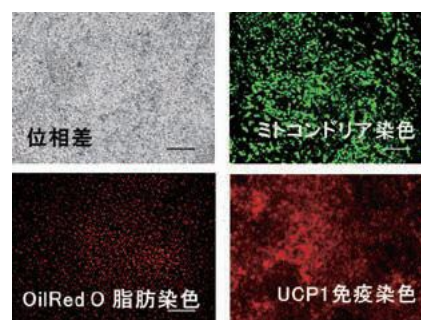
「体細胞から種々の組織細胞を高効率に直接誘導する技術」

これらの特許は再生医療のための自家細胞を調製する技術を提供するものです。誰からでも容易に採取し増殖させられる線維芽細胞から、遺伝子導入や化合物を添加した培養を行うことで、骨芽細胞や筋芽細胞など種々の機能的な組織細胞を誘導できます(図1)。一例としてヒト線維芽細胞に転写因子C/EBP- β とc-mycの遺伝子を導入し10日間培養することで、90%以上の細胞を褐色脂肪細胞にコンヴァートできます(図2)。またマウス線維芽細胞はC/EBP- β 、PRDM-16 とc-myc遺伝子の導入で同様に褐色脂肪細胞に転換できます。この直接誘導褐色脂肪細胞(dBA)をマウスに移植すると、体表温度に依存して熱を発生します(図3)。糖尿病マウスに移植すると耐糖能とインスリン抵抗性が有意に改善します(図4)。

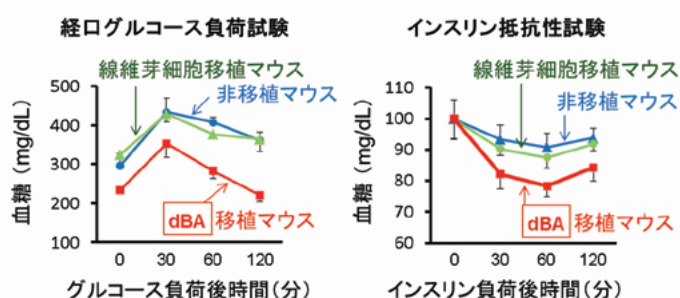
これは褐色脂肪細胞が糖尿病を抑制できることを初めて証明した報告ですが、褐色脂肪細胞が失われる糖尿病等の疾患に対して本誘導細胞が新しい治療手段を提供する可能性があると考えられます。現在、開発と知財戦略に優れたベンチャー企業であるセルアクシア株式会社との共同開発を進めています。



<図1> 種々の組織細胞が誘導できる



<図2> 直接誘導褐色脂肪細胞(dBA)



<図4> dBAを移植すると糖尿病が抑制できる



<図3> dBAは生体内で熱を産生する

プロトポルフィリンIX (PpIX)を用いたリンパ節転移診断支援装置の開発

医学フォトニクス講座は、医療における光による分子イメージングの確立を目指していますが、産学連携の一例として取り組んでいるPpIX蛍光による腫瘍イメージング技術の開発について紹介します。

高松 哲郎(医学フォトニクス講座)

モチベーション

現在、国内では病理医不足のため適切ながんの病理診断が出来ない医療施設が多く、病理医不在の施設でも迅速で簡便な診断を行える装置の開発が望まれています。

技術

5-アミノレブリン酸(5-ALA)は、正常細胞では蛍光を認めないヘムにすばやく代謝されますが、腫瘍細胞ではその代謝が障害されているため、蛍光物質であるプロトポルフィリン IX (PpIX)が蓄積します(図1)。これにより、5-ALAを生体に過剰投与し一定の時間を経て観察すると、PpIXによる腫瘍の検出が可能となります。私たちは5-ALAを用いたリンパ節転移の検出法が高い正診率を有することを明らかにするとともに(Murayama et al.2009, Koizumi et al.2013, Harada et al.2013, Koizumi et al.2016, Minamikawa et al.2016, Koizumi et al.2016)、検出法の基本技術について特許(表1:1)を出願しました。

経緯

上記技術を医工連携推進シンポジウムにて発表したところ、10社以上の企業から共同開発のオファーをいただきました。その中から面談などを経てウシオ電機株式会社をパートナーとして、同社と共同で平成25-27年度課題解決型医療機器等開発事業(経産省)に採択されました。この事業において、新たな検出技術を組み込んだ蛍光診断支援装置(図2)の開発とともに、マイクロレベルで試料をホールドできる無蛍光樹脂製ホルダーを開発し、将来の海外進出を考慮して国際特許を出願しています(表1:2-7)。このシステムにおいて当初の目標である、サンプルホルダー窓部を通して200μm以上の転移巣を検出可能な性能であること、3分以内の測定が可能であることを確認できています。

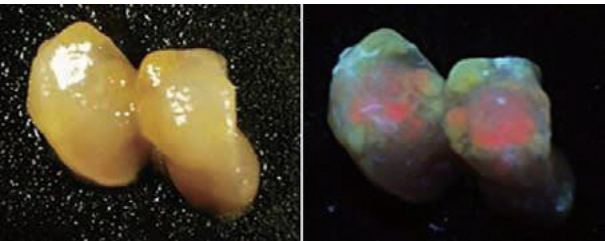
今後

癌スクリーニングに適した、より簡便な診断支援装置を開発中です。

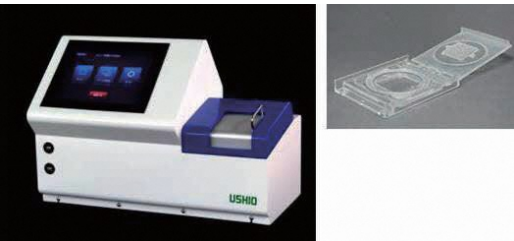
<表1> 関係出願済特許一覧

1. 腫瘍部位の識別装置及び識別方法	WO/2013/002350 (2013/1/3)
2. 検体用ホルダー	WO/2016/063952(2016/4/28)
3. 検体用ホルダー	WO/2016/063950(2016/4/28)
4. 腫瘍部位の判別のための方法、腫瘍部位の判別装置	WO/2016/063945(2016/4/28)
5. 腫瘍部位の判別のための方法、腫瘍部位の判別装置	特開 2016-085111 (2016.5.19)
6. 腫瘍部位の判別のための方法、腫瘍部位の判別装置	WO/2016/063949(2016/4/28)
7. 腫瘍部位の判別のための方法、腫瘍部位の判別装置	WO/2017/082242(2017/5/18)

<図1> 転移リンパ節では腫瘍に一致して赤色蛍光を認める。



<図2> 産学連携によって開発された蛍光診断支援装置。



卒業生からのメッセージ

「医者のメンタリティは柔軟なほどいい。
そのために“遊ぶこと”と“考えること”の両方をやってみてほしい」

北山 修さん



プロフィール

精神科医(専門:精神分析学)、臨床心理士。1972年京都府立医科大学卒。九州大学大学院教授を経て、白鷗大学副学長などを歴任。府立医大在学中の1965年ザ・フォーク・クルセダーズ結成、1967年プロデビュー。「帰ってきたヨッパライ」などが大ヒットするも1968年、解散。その後、作詞家として活躍。「戦争を知らない子供たち」「あの素晴らしい愛をもう一度」などのヒット作がある。『コブのない駱駝——きたやまおさむ「心」の軌跡』など著書多数。

途中下車してこそ出会える風景もある

次の電車は必ず来る。みなさんにこの言葉を贈りたいと思います。

私は府立医大入学後間もない8月に加藤和彦らとザ・フォーク・クルセダーズを結成、大学3年生の時に、解散記念レコードのために作った「帰って来たヨッパライ」が思いがけず反響を呼び、メジャーデビューしました。翌年10月に解散してからも、私自身は医学生を続けながら、主に作詞家として活動し、ただレールの上を走るだけでは出会えなかったであろう数多くの風景を見ることができました。

医者は、人が元気を取り戻すまでの、あるいは亡くなるまでのプロセスに立ち会う仕事です。そして、患者さんの一人ひとりには生まれ育ちも人生観や死生観も異なります。それらを否定するのではなく、受け入れ、共に病に向き合うために、医者としてのメンタリティは柔軟なほうがいい。その自由な精神性は、途中下車や道草をし、遊び、心に余裕を持って考えるということを通して養われる部分も大きいのではないかと思います。

こういう話をすると「時代が違う」「次の電車が来るかどうかわからない」という声が聞こえてきそうですが…。確かに学園紛争の真っただ中で混沌の時代だった半面、留年したり休学したり道をはずれることも許容されていた当時と今とは、

さまざまな面で大きく違います。しかし乗り遅れても次の電車は必ずやって来るし、鈍行電車でも目的地にたどり着けることに変わりはないでしょう。

人の在り様を受容できる自由な魂のために

府立医大卒業後は、お世話になった先生の紹介で、札幌医科大学に進みました。芸能活動、中央から離れ、医師としても立派な、ある意味で面白い人の集まる札幌医科大学での日々は私にとって安心できる居場所となりました。しかし、そこでも白衣姿の北山を撮れとパパラッチに追いかけて回され、患者さんやご家族の方にも迷惑をかけてしまいました。日本で医者になることは無理なのではと感じ、自分を見つめる環境と時間を求めて、海外留学を決意。留学先のロンドンでは精神分析学会に出会い、精神分析家となる最初の土台が作られていきました。

挫折感も含めた若い頃の途中下車は、大げさに言うなら精神科医としての柔軟な魂を形作ってくれた、貴重な移行の過程であったと感じます。いろいろな人間の在り様を受容できる魂の在り方を維持するため、できれば今、若い時に、それが無理ならば30歳でも40歳でもいい。寄り道をし、時につまずきながら、自分らしい「遊び」をして、遊びの中から「考える」ということを、ぜひやってみてほしいと思います。

新任教授紹介



大学院医学研究科 分子標的予防医学 教授

武藤 倫弘 Mutoh Michihiro

着任日:2020年2月

略歴: 山口大学卒業後、筑波大学付属病院内科レジデント、米国NIH/NCIで2年半客員研究員・日本学術振興会海外特別研究員として研究に従事。その後、国立がん研究センター研究所、社会と健康研究センターを経て2020年2月、分子標的予防医学教授に着任。

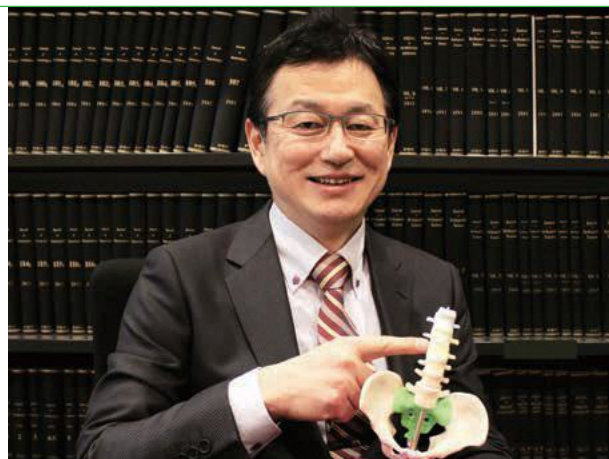
がん予防薬1剤目を世に出す

私は、現在「がん予防薬1剤目を世に出すこと」を目標に研究・活動を行っています。我が国には国民皆保険制度があり、公衆衛生の充実と共に長寿社会を実現してきました。その中で国民の健康志向は強くなっているものの、がんは長期に渡って死因の1位を占めています。予防の観点から見て見ると、制度上の問題もあり「がんの予防薬」は存在していません。つまり、AIなどのITを用いてビッグデータが解析され、がんのリスクが正確に予測されるようになって、我々はがんが見つかるまで待つことしかできないのです。このままでは、患者さんに「あなたは60歳で70%の確率で大腸がんになりますよ」と言うだけで、そのリスクを下げる具体的指導／処方ができないことになってしまいます。これまでがん予防に役立つバイオマーカーは開発されていないし、薬としてのビジネスモデルもない。高騰するがん治療費を考えると、国民皆保険は破綻するかもしれない。でも超高齢化社会を前にがんの罹患数は下がっていかない。このように日本のがん予防は、喫緊なテーマであるにも関わらず、「ないない尽くし」です。がん教育・がん検診の重要性は増していますが、先制医療としては実際に何ができるのか？この様な現状を前に、私はがん予防を中心に「先を予見して一手を打つ予防医学」全般を実学として大学・大学院で教育し、激動の最中にある社会に対応できる医療人の育成を目指します。そして150周年を迎える京都府立医科大学と共に京都の医療に貢献できるように全力を尽くす所存です。

大切なのはどれだけ高く目標を定めるか

私は本学を卒業し多くの手術ができるようになりたいと整形外科に入局しました。ところが入ってみると整形「外科」は手術だけでなく、薬、リハビリ、装具などいろいろな治療法を総合的に駆使して運動器を治す科でした。その守備範囲はとても広く、多くの大学病院では限られた領域の診療のみをしています。当科の特色はいかなる運動器疾患に対しても対応できる体制を整えているところです。関節疾患(股、膝、肩など)、足の障害、スポーツ障害・外傷、骨・軟部腫瘍、関節リウマチ、手・末梢神経障害、脊椎・脊髄疾患、小児疾患、骨粗鬆症、外傷、スポーツなど多くの専門スタッフがいます。今後はすべての専門領域を全国トップレベルに引き上げ、教育を通じて京都の整形外科医療に貢献したいと思います。

私は当科教員を経験後、関東に移って特色の異なる2つの私学大学医学部教員を経験してきました。これらの大学では最新の教育システム・設備を創意工夫して整えています。東京中心部の医大では多数の競合校が近隣にある中で特定の臨床領域に特色を出し、地方新設大学では伝統校に負けない教育をしようと職員一丸となって努力しているところを目の当たりにしてきました。これらの経験をふまえ、伝統ある京都府立医科大学整形外科学教室では、診療においては各専門グループが多くの関連病院と連携できるネットワークを構築し、教育においてはいろいろな可能性を提案しながら積極的に新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。



大学院医学研究科 運動器機能再生外科学 教授

高橋 謙治 Takahashi kenji

着任日:2020年2月

略歴: 京都府立医科大学卒業後、整形外科医として京都府立医科大学を中心に勤務。日本医科大学、国際医療福祉大学での勤務を経て、2020年2月、運動器機能再生外科学教授に着任。

部活動紹介

京都府立医科大学には体育部20部、文化部13部の部があり、多くの学生がクラブに所属しています。
本学の多彩な部活動と今年優秀な成績を収めた部活を紹介します。



部活動一覧 (令和元年9月1日現在)

クラブ名		部員数
体育部 20	準硬式野球	28
	柔道	11
	弓道	56
	空手道	9
	剣道	11
	サッカー	21
	ラグビー	17
	陸上競技	52
	硬式テニス	35
	軟式テニス	40
	フットサル	53
	卓球	61
	バスケットボール(男子/女子)	44 ※男女合計
	バレーボール(男子)	25
	バドミントン	46
	ハンドボール	35
文化部 13	ヨット	28
	水泳	52
	ワンダーフォーゲル	85
	自転車競技	6
	オーケストラ	26
	総合芸術	26
	軽音楽	61
	ESS	28
	茶道	25
	混声合唱団たちばな	25
	囲碁・将棋	18
	写真	9
	東洋医学研究会	12
	ライフサポート	5
	美術部	6
	AIメディカル研究会	10
	医道(かるがも)	10

2019年度 優秀な成績を収めた部活・個人



- ハンドボール部 西日本医科学生総合体育大会 **団体戦 優勝**
- 弓道部 西日本看護学生弓道選手権大会 **矢崎末奈 準優勝**
- ヨット部 西日本医科学生総合体育大会 **団体戦スナイプ級 優勝**
- 陸上競技部 全日本医歯薬獣医大学対校陸上競技選手権大会
女子4×400mリレーチーム(若崎、嶋川、安田、藤田) 準優勝
- 水泳部 西日本医科学生総合体育大会
小田智水 女子100m平泳ぎ 3位・女子50m平泳ぎ 2位
森島悠貴 男子200m自由形 3位
西日本メディカル学生水泳競技大会
女子200mメドレーリレー 3位
石本雛子 女子100mバタフライ 1位・女子50mバタフライ 1位



ハンドボール部



ヨット部



白衣授与式

12月19日に令和元年度白衣授与式が挙行されました。

白衣授与式は、各臨床医学科目及び共用試験(OSCE・CBT)に合格し、臨床実習を行うことを許された医学科4年生に対して、医師の象徴である白衣を授ける記念行事で、白衣は医学科同窓会組織の学友会から寄贈されたものです。今年の白衣授与式には、109名の学生が参加しました。

竹中学長、井端学友会長からの挨拶ののち、大学のシンボルマークが入った白衣が授与されました。出席教授から白衣を着せてもらった学生たちは、1月から本学附属病院内での臨床実習に参加し、医療人として必要な手技・知識を身に付けていきます。



新しい白衣に身を包む



学生一人ずつに渡される白衣

小児病棟 プラネタリウム企画

12月26日、附属病院小児医療センターに入院中の子どもたちを対象に、病棟内においてプラネタリウムを観賞してもらう催しが開かれました。

今回、学生のボランティアが企画し、全国の病院や施設で移動式のプラネタリウムを実施する一般社団法人星つむぎの村の方々のご協力のもと実現しました。

当日は、小児病棟にて3回プラネタリウムの上映が行なわれました。会場には学生による手作りの装飾が施されるなど、子どもたちが入室しやすい雰囲気包まれ、参加した子どもたちやそのご家族は、天井に映し出される満天の星空を眺め、また、広大な宇宙を旅するなど、楽しい時間を過ごされました。

企画の中心になって取り組んだ三輪さん(6回生)は「CC1・CC2と病棟を回らせていただき様々な患者さんと出会ってきました。実習でお話しさせていただくなかで、患者さんは、想像以上に大きな不安を抱えて病院生活を送っておられるのだ、ということを感じました。しかし、まだ免許を持っていない学生の身分では何もできずに見ていることしかできなかった、そのことがとても悔しかったです。だから今回の話を持ち掛けられた時はこれだ!と思いました。カンファレンス室の天井に満天の星空が広がった時の子どもたちの歓声は一生忘れないと思います。部屋を出るときに「またきてね」と言ってくれた子もいました。医師免許がなくても患者さんを笑顔にすることはできると証明できて、学生生活最後にいい思い出ができました。」と語り、また「企画の幹部仲間、当日手伝ってくれた学生ボランティアの方々、



そして素晴らしいプラネタリウムを提供して下さいました「星つむぎの村」の方々には心から感謝です。また、今回当日のボランティアに参加してくれた学生の中から「この活動を部活化して定期的に行っていこう」という人たちが出てきてくれたこともとても嬉しかったです。この流れがずっと続いていってくれるといいなと思います。」と語りました。

国際交流 NEWS

チェンマイ大学協定締結 チュラロンコン大学訪問

～東南アジアでの交流拡大、臨床実習派遣に向けて～



チェンマイ大学看護学部にて



チュラロンコン大学との覚書締結

京都府立医科大学の24番目の協定校としてチェンマイ大学が加わりました。

1月15日に水野国際学術交流センター長、の場教授(循環器内科学)、江本教授(老年看護学)がチェンマイ大学の医学部・看護学部を訪問し、今後の交流に向けた協議を行いました。両学部とも積極的に交流をしていきたいという希望であり、学生交流や共同研究など今後の交流拡大が期待されます。

チェンマイ大学はタイ北東部最大の都市チェンマイに位置する大学です。北タイ一帯を治めたランナー・タイ王国の首都

として栄えたチェンマイは、現在でもタイ北部の文化・経済の中心地です。チェンマイ大学は17の学部を有する総合大学で、今回は大学同士での協定締結となりました。昨年創立60周年を迎えた学内は、60周年を祝うモニュメントや看板が様々な場所に設置され、大学をあげてお祝いをしていることが感じられました。

チェンマイ大学訪問後、昨年2月に学術交流協定を締結したチュラロンコン大学医学部を訪問し、学部生の臨床実習開始に向けて学生交流の覚書を締結しました。世界各国の大学から臨床実習を受入れて

いるチュラロンコン大学は、留学生のための学生寮も所有しており、学生寮を見学させていただいた際にも様々な国の学生たちが滞在していました。

「微笑みの国」タイの両大学の先生方、国際交流担当スタッフの皆さんからは手厚い歓迎をしていただきました。2020年度には医学科の学生がチュラロンコン大学での初めての臨床実習を行う予定です。今まで臨床実習派遣を行ってきた欧米とは違う文化、環境での実習が、学生たちにとって貴重な経験になることを期待しています。



チェンマイ大学60周年記念



チェンマイ大学正門



チュラロンコン大学との協議

創立100周年記念事業

創立100周年記念事業の準備は、1968年(昭和43)2月、創立100周年記念事業委員会の委員が委嘱されて正式にスタートしました。

100周年記念事業として、記念会館の建設、百年史の刊行、記念祝典開催が計画され、記念会館の建設については、土地確保等の課題により断念されましたが、1963年から1971年にかけて、臨床診療棟、基礎医学学舎、臨床医学学舎、花園学舎が竣工し学内環境の整備が行われました。

百年史は、三宅清雄教授を委員長とした百年史編集委員会によって1974年3月に発行されています。679ページにわたる百年史の中では、療病院の設立から100周年に至る歴史だけでなく、

各教室・付属施設の歴史、病院統計などが掲載され、療病院から始まった京都府立医科大学の特異な歴史を垣間見ることのできる1冊になっています。

3つ目の柱、記念祝典は1972年11月3日に開催されました。この日は非常な悪天候に見舞われ、雨が激しく降る中の開催でしたが、国会議員、国立大学の学長、医学部長をはじめ、各界の名士、同伴の家族など千数百人が参列しました。式典後は鴨川河川敷において園遊会が開催され、三百数十畳の大きなテントの中に多数の参加者が昔を懐かしみ、語り合いあったということです。

来たる、2022年11月5日の創立150周年記念式典はどのような式典になるのでしょうか。



100周年正門



1972年当時の府立医科大学



1972年11月3日に開催された記念式典

京都府立医科大学附属図書館デジタルアーカイブ:京都府立医科大学百年史

<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/library/denshi/kinenshi/100/index.html>

歴代学長インタビュー



元 京都府立医科大学学長
元 消化器外科教室教授

山岸 久一

学長時代を振り返って

2006年4月1日に就任した時は、大学の独立行政法人化の2年前でありましたので府立医科大学と府立大学が、一法人二大学として進む方向性に決定するための委員会(京都府)が頻繁に京都府庁で開催され、最終的に両大学がそれぞれの伝統と品格(大学の自治も含め)を重んじて発展する目的で二法人二大学ではなく、一法人二大学として進む事に決定しました。当時一法人二大学のシステムは、京都府と静岡県の二つのみでありました。法人化の特色は、「透明性」と「迅速性」を堅持する運営を求められた事であります。そして、2008年4月から法人化が一法人二大学でスタートして現在に至って

おります。全国的に国公立大学が独立法人化されて、2008年・2009年と続けて、全国の国・公立大学の法人化した大学の学長と事務局長が1泊2日の宿泊での合宿研修会にも出席した思い出があり、そこでも「透明性」の維持が強く話題となりました。150周年を向かえるに当たって、もう一度大学運営に当たっての透明性の維持について、全構成員は考え直して頂きたいと思います。

もう一つの思い出は、一連の建築計画です。現在大学本部棟になっている旧図書館棟は外来棟が出来上がった後には、解体される運命でありましたが、私は唯一歴史を語るネオゴシック建築である為解体を避ける方策をとりました。先ず京都市長に病院の北側、駐車場との間に東西に市道があったのを、駐車場の北側に移転するお願いに行き、それが許可されましたので、病院と駐車場が土地続きとなり、全体の連続性土地面積が大きくなって、大学全体の建ぺい率が少なくなり、旧図書館を残す事が可能となり、現在は大学本部として使用され本学唯一の歴史的建造物となりました。

大学の益々の発展を祈念致します。

創立 150 周年に向けて

150周年NEWS

2022年に創立150周年を迎えるにあたり、創立150周年実行委員会では、創立150周年記念グッズを企画中です。

2019年11月には、第1弾のグッズとして本学の学祭トリアス祭とタイアップして「創立150周年記念Tシャツ」を作成しました。本学学生から広くデザインを公募し、多数の応募作品の中から最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞の合計4作品を採択しました。

各賞を受賞した作品の表彰式は、11月2日にトリアス祭で開催され、受賞作品はトリアス祭限定で100着作成、トリアス祭展示・販売されました。

今後も様々な創立150周年記念グッズを制作する予定です。最新情報は随時ご紹介しますので、楽しみに！



創立150周年記念事業に向けた寄附のお願い

京都府立医科大学は、『世界トップレベルの医学を地域へ』を目指し、ふるさと納税制度を用いた個人寄附金を募集しています。ふるさと納税に関する詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.kyoto.jp/fu-daigaku/news/furusato.html>



お問い合わせ先 | 京都府立医科大学事務局総務課 電話:075-251-5210 E-mail:soumu@koto.kpu-m.ac.jp
150周年ホームページ: <https://150th.kpu-m.ac.jp/>

本学の歴史の原点、「療病院」の遺物が出土しました！

2022年に150周年を迎える本学の歴史は、1872年に府民自らの寄附によって、京都東山の青蓮院に建設された「療病院」からはじまります。この度、京都市考古資料館が2019年に実施した近衛中学校の調査で、府立医科大学の前身である「療病院」の銘をもった陶器・磁器の碗・皿が多数出土しました。本学から1km以上離れた近衛中学校でなぜ出土したかは不明ですが、これらの陶磁器は病院で使用された「病院食器」とであるとみられています。

これらの陶磁器は、京都市考古資料館にて「療病院の病院食器 一近衛中学校の調査から—」として展示されます。また、青蓮院境内にある療病院碑や本学敷地の石碑などが紹介されます。

展示詳細

開催日時：令和2年3月7日～令和2年5月10日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

展示場所：京都市考古資料館1階 階段下

*開館日など詳細は京都市考古資料館HPをご覧ください。| <https://www.kyoto-arc.or.jp/museum/>

